

# 日本語とキルギス語の従属節の テンス・アスペクトに関する考察

スバゴジョエワ アセリ

## 研究の背景と方向性

従来、日本語のアスペクト研究の中心は主節における述語のテンス・アスペクトを対象にしたもの、あるいは、「スル」と「テイル」といった形態的に対立する表現に関する研究が主流であったが、本研究ではスバゴジョエワ (2016) の第3章に基づいて、従属節のテンス・アスペクトに注目する。キルギス語学の分野でも、主節の位置のテンス・アスペクト形式について研究がある程度進められているが、従属節についての議論は主節ほど活発に行われていない。そこで手順としては、日本語から出発して、日本語の従属節のテンス・アスペクト形式の特徴を見ていき、キルギス語と対照しながら考察していく。

## 1. 日本語の従属節のテンス・アスペクト

日本語には時間を表す副詞節として、トキ(二)、アイダ(二)、マエ(二)、アト(デ)などで終わる従属節がある。時間を表す従属節を含む複文が複数の出来事の様々な時間関係を表して、主節、従属節の述語のテンス・アスペクトが絡み合ってくる。そうした時間を表す副詞節に現れる動詞のテンス・アスペクトは、日本語学習者にとって習得しやすくはない。特に(1)のようなトキ節の場合、多岐にわたる複雑な様相を呈している。というのは、マエ(二)とアト(デ)は、複数の出来事の時間的前後関係を表すのに使われ、主節時基準<sup>1</sup>の違いによってル形とタ形を使い分けている一方で、トキ節には、「スルまえに」と「シタあとで」とは異なり、ル形やタ形のみならず、スル形、

シタ形、シテイル形、シテイタ形などのような形式が現れるからである。また、主節時基準と発話時基準の両方が許容されることもあるため、日本語学習者が悩まされる。

- (1a) 本を読んでいる時に、友達から電話がかかってきた。(主節時基準)  
(1b) 本を読んでいた時に、友達から電話がかかってきた。(発話時基準)

(1a) では従属節のテンスが「読んでいる」というように「テイル」形になっているのに対し、(1b) では「読んでいた」と「テイタ」形になっている。それぞれの違いは、(1a) では従属節の「本を読んでいる」という事態が、「友達から電話がかかってきた」という主節時から見て、同時であるとして「テイル」形になっている。(1b) では従属節の事態が、発話時から見て過去として「テイタ」形になっている。(1a) のように従属節のテンスが主節時を基準にして従属節事態が前か後かあるいは同時かを表すものが相対的テンスであり、(1b) のように、従属節のテンスが発話時を基準にして従属節が前か後かあるいは同時かを表すものが絶対的テンスである。

「トキ」節に関する先行研究として寺村(1984: 322-323)は、次のように述べている。

英語では‘テンスの一致’の法則によって、主節の動詞が過去形のときは‘when…’節の

1 主節の時間を基準に従属節のテンスを判断する場合を主節時基準という。一方、発話時の時を基準に従属節のテンスを判断する場合を発話時基準という。

動詞は現在形で使えないが、日本語では、たとえば、

- [9] a 日本へ来ルトキ、友ダチが空港マデ来テ  
クレタ  
b 日本へ来タトキ、友ダチが空港マデ来テ  
クレタ

の両方とも可能であり、しかも両者は明瞭に異なる内容を表わしている。主人公がたとえばタイ人だとすると、[9] aの空港はバンコック、[9] bのそれは羽田か伊丹ということになる。つまり、ここでは下線の‘現在形’は主節の動詞の表わしている時点（この場合は過去）において‘来ル’という動作・でき事が未だ完了していないことを、‘過去形’はそれが完了していたことを表わしている。つまりテンスの対立でなくしてアスペクト的対立である。

この寺村（1984）は、従属節と関わりがあるタ形の意味をどう考えるかという問題と取り組んでいる。基本的に、タ形の意味を①過去だけとするもの、②完了だけとするもの、③過去と完了の両方とするものという3つの立場があるが、現在の主流の考え方は③となっていると言える。このように、トキ節の研究に当たっては、出来事の様々な時間関係を表すテンスとアスペクトが絡み合っているため、これらも慎重に考えなければならない重要な課題となっている。

本論文では、スバゴジョエワ（2016）第3章での議論のうち共起的時間関係を表す「トキ」節を対象とし、キルギス語との比較対照を行う。なぜなら、両言語を比較対照する上で、複数の出来事間の様々な時間関係を表す共起性（同時性）を表す「トキ」は主節・従属節のテンス・アスペクト性と相関しており、最も複雑な特徴が見られると考えるからである。

さらに、三原（1992: 22）は従属節の時制に関して次のような視点の原理を提案している。

#### 視点の原理 (tense perspective)

- a. 主節・従属節時制形式が同一時制形式の組み合わせとなる時、従属節時制形式は発話時視点によって決定される。  
b. 主節・従属節時制形式が異なる時制形式の組み合わせとなる時、従属節時制形式は主節時視点によって決定される。

三原のこの原理をトキ節に当てはめると、前述の「本を読んでいる時に、友達から電話がかかってきた」では「～テイルトキ、～テキタ」のように主節と従属節が異なる時制の主節時視点が見られ、「本を読んでいた時に、友達から電話がかかってきた」では「～テイタトキ、～テキタ」のように同一時制の発話時視点となる。この原理の中心となるのは、主節・従属節で記述されている事態がどのような順序関係で行われているのかという点である。

以上が、寺村（1984）、三原（1992）による日本語の従属節に関するテンス・アスペクトの先行研究である。こうした先行研究を踏まえ、先述した日本語の（1a）に見られる従属節の主節時基準（相対的テンス）と（1b）に見られる従属節の発話時基準（絶対的テンス）の例について、キルギス語では、日本語に見られるような（1a）と（1b）の区別がなく、一括して以下の（2）～（5）の下線部のような表現が可能である。

#### (2) Men kitep oku-p \_\_\_\_\_ jat-kan-da

私 本 読む-CVB jat-PART-LOC

dosu-m telefon čal-ıp kal-dī.

友達-1:POSS 電話かかる-CVB 残る-PAST1

「私は本を読んでいる/いた時に、友達から電話がかかってきた。」

(2) では、キルギス語のテンス・アスペクト

は「jat- 補助動詞 + kan 分詞 + da 位格」によって表示され、発話時基準のみで使われている。この補助動詞が主に主節の述語である場合、主に現在進行の意味を表すが、補助動詞 jat- 以外に jür-、tur-、otur- の使い分けがあり、従属節でも同様にこれらが接続して現れる。

- (3) Men kitep oku-p otur-gan-da  
 私は 本 読む-CVB otur-PART-LOC  
dos-u-m telefon čal-ip kal-di.  
 友達-1:POSS 電話かかる-CVB 残る-PAST1  
 「私は本を(座って)読んでいる/いた時に友達から電話がかかってきた。」

以上4つの補助動詞の中から jat- (横たわる)<sup>2</sup> に加えて otur- (座る) が使われている。(3) の場合、「座って読んでいた時」の意味が強く残る。しかし、残りの jür- (動く)、tur- (立つ) は、(3) の用例に関して言えば使えないが、(4) の用例では使うことができる。

- (4) Men ötköndö uşul jer-de bas-ip  
 私は この前 ここ 場所 歩く-CVB  
jür-gön-dö sen-i ěste-di-m.  
jur-PART-LOC 君-ACC 思い出す-PAST1-1SG  
 「私はこの間ここを歩いていたら、君のことを思い出した。」

- (5) Men jol-du kara-p tur-gan-da  
 私 道路-ACC 見る-CVB tur-PART-LOC  
apa-m čakır-ip kal-di.  
 母-1:POSS 呼ぶ-CVB 残る-PAST1  
 「私は道路を見ている/いた時、お母さんが呼んできた。」

以上の (3) ~ (5) は、それぞれは「座っ

て読んでいる時」、「動きながら歩いている時」、「立って見ている時」のように補助動詞が本来本動詞として有している語彙的な意味が関係してくるので、ある程度わかりやすい。一方、下の (6) のように抽象的な事柄について話す場合は、汎用性が高い jat- が用いられることが多い。

これに対し、(7) は過去における具体的な事柄について話しており、jat- が用いられず、jür- が用いられている。

- (6) Oşon ücün önör-gö üyrön-üp  
 だから 技術-DAT 勉強する  
jat-kan-da jana bilim aluu-da  
jat-PART-LOC と 教育 受ける-LOC  
ooz-du aç-ip, ubakıt-ti tekke  
 口-ACC 開く-CVB 時間-ACC 無駄  
ketir-beş kerek. (Kabusname)  
 行かせる-NEG 必要  
 「だから勉強している/いた時に口を開けっ放しにして、時間を無駄にしない方がいい。」

- (7) Biz mektep-te oku-p  
 私たち 学校-DAT 勉強する-CVB  
jür-gön-dö kompyuter-di kantip  
jur-PART-LOC コンピューター-ACC どう  
küygüz-ö-büz ěmne-ni bas-a-büz dep  
 つける-PRS-PL 何-ACC 押す-PRS-PL と  
oylon-gučaktı sabak büt-üp kal-ču.  
 考え-まで 授業終わる-CVB しまう-PAST3  
 「私たちは学校で勉強している/いた時にコンピューターをどうやってつけるか、何を押すかを考えているうちに授業が終わってしまっていた。」

このように、キルギス語は従属節にも4つの補助動詞は接続して現れる点が複雑であるかも

2 括弧の中は本動詞として有している語彙的な意味である。

しれないが、日本語学習者にとって、「トキ」節の時制を発話時基準で限定するキルギス語と比べて日本語の「トキ」節は複雑である。そこで第2節では、日本語の「トキ」節のテンス・アスペクトをめぐるキルギス語と比較対照しながら考察していく。

**2. 共起的時間関係を表す「トキ」節をめぐる日本語とキルギス語の比較対照**

日本語とキルギス語の従属節の持つアスペクト的特徴について分析を試み、従属節の出来事と主節の出来事の時間的順序関係の観点から共起的時間関係を表す日本語のトキ（二）節とそれに対応するキルギス語の例を比較対照する。

工藤（1995）では、「トキ」節を共起（同時）関係を表すこととし、継起性－同時性というタクシス関係（時間的順序関係）により、従属文の述語形式が、アスペクト的意味を実現するか、相対的テンス的意味を実現するか、絶対的テンス的意味を実現しうるかを決めていくと指摘している。このように主節のテンスに比べ、従属節のテンスは難しい問題を含んでいる。

- (8) a. 去年、ソビエトに行くときは、新潟からの船を使いました。
- b. 去年、ソビエトに行ったときは、新潟からの船を使いました。

工藤（1989: 4）

以上の（8a）の下線が相対的テンス、（8b）の下線が絶対的テンスの例である。しかし、日本語は基準設定によって、一見同じ文に見える「ル・テイル」と「タ・テイタ」の選択の使い分けがあり、理解しにくい。特に相対的テンスを理解しないと、正しい日本語の文を作ることができない。主節の述語は発話時を基準とした絶対的テンスであるが、従属節の述語のテンスは主節の述語を基準として、それより前に起

ているか、後に起きているか、または同時に起きているかを示す相対的テンスがある。このため、上記の副詞節のうち「トキ」節は非過去・過去の述語に接続し、主節が過去でも、従属節には非過去の「ル」が現れたり、逆に主節が非過去でも、従属節に過去の「タ」が現れることもあり、日本語学習者の誤用も多い。

本論文では、スバゴジョエワ（2016）第3章の中でキルギス語との対照を通して日本語の「トキ」節におけるテンス・アスペクトの使用実態に焦点を当てて包括的に明らかにする。

まず、従属節としての「トキ」節と主節の可能な組み合わせを示してみる。具体的には、後続する主節に現れるテンス・アスペクトを示す表現のうち「ル」形の場合をAグループとし、「タ」形をBグループ、「テイル」形をCグループ、「テイタ」形をDグループとすると、各々グループの主節に先行する従属節としての「トキ」節にはテンス・アスペクトを示す表現がそれぞれ1～4までの4種類ある。これらをまとめると〈表1〉のようになる。

〈表1〉日本語の複文における従属節と主節のテンス・アスペクト（スバゴジョエワ2016: 130）

	従属節	主節
A	1. スルとき 2. *シタとき 3. シテイルとき 4. *シテイタとき	「ル」形
B	1. スルとき 2. シタとき 3. シテイルとき 4. シテイタとき	「タ」形
C	1. スルとき 2. シタとき 3. シテイルとき 4. *シテイタとき	「テイル」形
D	1. スルとき 2. シタとき 3. シテイルとき 4. シテイタとき	「テイタ」形

この表の従属節の中にある\*の記号は、非文法的であることを表す。例えば、表中のA4にある「\*シテイタとき」は、主節が「ル」形の場合、それに先行する従属節内に「シテイタとき」が現れると非文法的であることを示す。この表に対応する日本語の例文は、以下の1～4に示すことにする。

## 2.1 主節が「ル」形の場合

### A1 スルとき

- (9) 子供たちは、年間を通してプールで遊び、  
卒園する時にはほとんどの子供たちが顔  
を水につけることができるようになります。

(「福祉の地域づくりをはじめよう」)

- (10) Baldar jil boyu basseyn-ge  
子供たち 年 ずっと プール-DAT  
tüš-üş-üp bakča-ni büt-üp  
入る-RECP-CVB 幼稚園-ACC 終わる-CVB  
jat-kan-da köbünčösü bet-in suu-ga  
jat-PART-LOC 多く 顔-3:POSS 水-DAT  
sal-gandī üyrön-üp kal-iš-a-t.  
入れる-PART-ACC 学ぶ-CVB 残る-RECP-PRS

(9)の日本語の文において、主節の動作と「トキ」節の動作の時間的前後関係を見ると、主節が示している「顔を水につけることができるようになる」のは従属節が表す「卒園する」前に起こる関係となっており、このような場合は「ル」形が使われている。それに対し、(10)のキルギス語では、構文として「顔を水につけることができるようになる」のは「卒園する」と同時に起こることを示している。しかし、主節に補助動詞のkal-（残る）が用いられることによって主節が示している事柄が「卒園する」前に起こるという意味が生じるため、(10)の文は全体として(9)の日本語と同様の解釈と

なっている。

### A2 シタとき

- (11) \*せきをした時に寝ている赤ん坊が目が  
さめる<sup>3</sup>。  
(12) Jötöl-gön-dö ukta-p  
せきする-PART-LOC 寝る-CVB  
jat-kan bala čoču-p ket-e-t.  
jat-PART 子びっくりする-CVB 行く-PRS-3SG

用例の(11)では、従属節の「せきをした」の「タ」は完了を表し、現在・未来を表す主節の「ル」形と接続できない。一方、(12)のキルギス語では従属節にjat-が用いられず、「jötöl-（せきをする）の動詞語幹+gön分詞+dö位格」によって表され、主節はčoču-p ket-e-tのように単純現在形を用いることができる。さらにčoču-p ket-tiのように過去形を使用することができ、日本語の方は「咳をした時に寝ている赤ん坊が目を覚ました。」のように「タ」形の過去形を使用しないと不自然な文になってしまう。

### A3 シテイルとき

- (13) さらに、話をしているとき、純子はとき  
どき目を伏せ軽く笑いかけた表情をす  
る。

(『ある少年の愛と性の物語』)

- (14) Anan dagī süylö-p jat-kanda  
そして も 話す-CVB jat-PART-LOC  
Jyunko keede köz-dör-ün  
じゅんこ 時々 目-PL-3:POSS  
jašint-ip külümdö-gön-süy-t.  
伏せる-CVB 微笑む-PART-3SG

3 この文は作例であり、日本語話者のチェックを受けている。

- (15) 例えば日本のサラリーマンは会議室で会議をしているとき、あまり発言しない。  
 (『気くばりのすすめ』)

- (16) Misali Japoniya-nyn jumušču-lar-i  
 例えば 日本-GEN サラリーマン-PL  
jıynalıš uçur-un-da unčug-uš-pa-y-t.  
 会議 時-3:POSS-LOC 発言する-NEG-PRS

(13) と (15) 日本語の用例においては、従属節は「話をしている」、「会議をしている」のシテイルが動作の進行を表し、それぞれの主節は「ル」形の肯定と否定が現れている文である。それぞれに対応するキルギス語の文は、(14) は süylö-p jat-kanda のように「補助動詞 jat+-kan 分詞」に -da 位格を後続させる形式と、(16) のような jıynalıš uçurunda (「名詞+トキ」という句で表されている。

#### A4 シテイタとき

- (17) \* さらに、話をしていたとき、純子ほどきとき目を伏せ軽く笑いかけた表情をする。

A4「～テイタとき、～スル」というパターンは手元にあるコーパスを利用して調べてみたが、これに該当する用例は出てこなかった。三原 (1992) の原理を用いて、文法的に合わない理由を述べる。三原 (1992) の原理 b に従えば、主節にある非過去形の「ル」が従属節の過去形「タ」に影響を与えて、非過去の意味に解釈することが可能となると予測をする。しかし、事実は異なり、(17) は非文法的であるため三原 (1992) の原理 b は成立しない。これを回避するためには、主節が「タ」形の場合に限り、原理 b が適用されるとするか、あるいは別の方法を考える必要がある。おそらく非過去形の「ル」が主節時視点で従属節の過去形「タ」

の時制を決定して非過去形の解釈を与えるほど強力ではなく、敢えてそうした解釈を与えようとするともとの意図から逸脱するということが関連するかもしれない。というのは、「話していたとき」は、絶対的時制で過去の文脈を表している。「以前」、「昔」、「この間」などは主節の「テイタ」と共起するが、「ル」は不自然になる。そして、(17) は A3 の「話をしているとき」を「話をしていたとき」に置き換えたら非文になっているが、キルギス語は (14) の文と同じ文になり、従属節の形式は主節の時制に影響を与えず、主節は現在形あるいは過去形でも、非文にならない。すなわち、「V- (i) p+jat-kan-da」は過去、現在、未来の時間について中和していると言える。

以上が、日本語において主節のテンス・アスペクトが「ル」形の場合、トキ節の使用実態と対応するキルギス語の例を示したものである。

最後に、A グループに示した日本語の特徴及びキルギス語との相違点を概観してみる。

キルギス語の「トキ」を表す時間副詞節には、上記の「-gan 分詞+da 位格」以外に、動詞の語幹に「-gan 分詞+kezde/ubakta/učurda/mezgilde/maalda/čakta/čende」という位格と合体した様々な副詞が存在し、主節の動作・作用がどんな時に行われるかを表す (Oruzbaeva et al., Red 2009: 718)。これらはいかなる品詞と接続するかによって使い分けられている。例えば、「学生の時」のように名詞と接続すると student kezde のように使われる。しかし、「会議の時」だと kezde が使用できず、učurda 副詞に位格の前に所有接尾辞を付加させて、jıynalıš uçurunda のように用いる。以下は、「トキ」の時間副詞節に対応して動詞に ubakta、učurda、mezgilde という副詞が接続した用例である。

- (18) Küz ay-lar-i tol-up tur-gan  
 秋 月-PL 溢れる-CVB tur-PART

ubakta, Kara-Alma t okoyu-nun  
 時 カラ・アルマ 森-GEN  
 kōrk-ü özüñčö bir šumduktuu.  
 景色-3:POSS 特に 一 美しい  
 「秋が真っ盛りの時カラ・アルマ森の景色が特に美しい。」

- (19) Miltik atıl-ïp jat-kan uçurda,  
 銃 撃たれる-CVB jat-PART 時  
 siz ukta-p kal-sa-ñiz kerek.  
 あなた 寝る-CVB 残る-COND-2 必要  
 「銃撃されていた時にあなたは寝てしまったかもしれない。」

- (20) Süröt sabag-ï jür-üp  
 美術 授業-3:POSS 行われる-CVB  
jat-kan mezigilde, biz-din klass-tïn  
 jat-PART 時 私たち-GEN クラス-GEN  
 eşig-i dayıma açıl-ïp tur-chu.  
 ドア-3:POSSいつも 開く-CVB tur-PAST2  
 「美術の授業が行われている時私達のクラスのドアはいつも開いていた。」

## 2.2 主節が「タ」形の場合

### B1 スルとき

- (21) 私は結婚する時、着物は用意しませんでした。  
 (『Yahoo! 知恵袋』(2005))
- (22) Men küyöö-gö tiy-er-de  
 私は 夫-DAT 結婚する- PART-DAT  
 kimono dayarda-gan ėmes-min.  
 着物 用意する-PAST ない-1SG

(22) の用例においては、これまで例示した -gan 分詞ではなく、-er 未来分詞（母音調和のために -ar がこの形になっている）が使われている。もし、(22) に -gan 分詞が用いられたら、「結婚した時」という過去の意味になる。しかし、

(21) の日本語では「結婚する時」が非過去形の「ル」で表されているから、キルギスで語は「結婚する前」という意味で -er 分詞、すなわち未来形を構成する接辞で表され、「結婚した時」とは異なる形式で示す。

### B2 シタとき

- (23) 自転車を降りて歩き出したとき、階段を降りていく男を見かけたんだ。  
 (『摩天崖』)

- (24) Velosiped-den tüş-üp bas-ïp  
 自転車-ABL 降りる-CVB 歩く-CVB  
bašta-gan-da tepkič-ten tüş-üp  
 始める-PART-LOC 階段-ABL 降りる-CVB  
 kel-e jat-kan ėrkek-ti kör-dü-m.  
 来る-CVB jat-PART 男-ACC 見る-PAST-1

工藤 (1995) は主節におけるシタが表すアスペクトの意味を「パーフェクト」と呼び、従属節においてトキの前に位置するシタが表すアスペクトの意味を「限界達成性」として両者を区別している。これは、スル、シタ、シテイル、シテイタが、従属節の述語であるときには、主節の位置にあるときとは異なるテンス・アスペクトの意味を表して、異なるテンス・アスペクトの対立をなすということの意味している。

(24) の下線部は、上の (22) と異なり、-gan 分詞で表示され、日本語の過去形の「シタ」に対応する。

### B3 シテイルとき

- (25) 研究と経営の両方に忙しくしているとき父に呼ばれてふるさとにもどり結婚しました。  
 (『世界にかがやいた日本の科学者たち』)

- (26) Izildöö menen birge ište-p  
 研究する と 同時 働く-CVB

jürgön-dö ata-m čakır-ıp  
 jur-PART-LOC 父-1:POSS 呼ぶ-CVB  
 kal-ıp, ayıl-ım-a bar-ıp üylön-dü-m.  
 残る-CVB 故郷-DAT 行く-CVB 結婚する-PAST

ここでの「忙しくしている」の「テイル」は動作の進行形で、アスペクト的に継続を表している。この場合は、「忙しくしていた」にも置き換えられる。一方、キルギス語は *jür-* 補助動詞で表されている。発話時点で継続しているという意味で *jat-* も使用可能であるが、「働く」という動作動詞を考えているから *jür-* の方が自然である。そして、*jür-* は基本的に長期的な活動を表す動詞と結合し、当該の動作をずっと前からしているという意味があり、*jür-* 補助動詞が現れている時は、日本語でもキルギス語でもすでに働き始めていることが前提となっており、(22) とこの点が異なっている。

#### B4 シテイタとき

(27) 校門のわきで立ち話をしていたとき、めぐみは聞き耳を立てていた。

(『おしゃべりな天使たちの教室』)

(28) *Mektep-ti darbaza-si-nin janin-da*  
 学校-GEN 門-3:POSS-GEN わき-LOC  
*tur-gan boydon süylös-üp tur-gan-da*  
 立つ-PART 話し合う-CVB tur-PART-LOC  
 Megumi ug-up tur-uptur.  
 めぐみ 聞く-CVB 立つ-PAST3

(29) *Mektep-tin darbaza-si-nin janin-da*  
 学校-GEN 門-3:POSS-GEN わき-LOC  
*tur-gan boydon süylös-üp tur-sa-k*  
 立つ-PART 話し合う-CVB tur-COND  
 Megumi ug-up tur-uptur.  
 めぐみ 聞く-CVB 立つ-PAST3

(27) の日本語の用例は「立ち話をしていた」の「立つ」がある関係で、キルギス語の用例(28)でも *tur-* という「立つ」を表す補助動詞をとまって「立って話をしている」という形式が使われている。しかし、(29) の用例のように「*tur-* 補助動詞 +sa 条件」を表す *-sa* 接辞の形式を用いてトキの従属節を表すこともできる。直訳すると「立ち話をしていると」となる。この場合は、(28) の *tur-gan-da* より条件法の *-sa* を使うと、後件にくる事が「発見」の意味を表し、特殊なニュアンスが出る。

以上の(28)と(29)では、意味的には相違がないが、*-gan* 分詞や *-sa* 条件詞が形式的には動詞語幹に後続するものではなく、補助動詞に後続することが特徴的である。この点で、一般の条件文とは異なり、主節の述語のテンスと従属節のテンスが一致し、同時に行われたことを表している。

以上が、日本語において主節のテンス・アスペクトが「タ」形の場合、「トキ」節の使用実態と対応するキルギス語の例を示したものである。

最後に、Bグループに示した日本語の特徴及びキルギス語との相違点をまとめると次のようになる。

- ・ 日本語では、Aグループの主節が「ル」形の場合と異なり、Bグループの主節が「タ」形の場合には4つの形式が使える。

- ・ 日本語の「～シタ時／～シテイタ時～スル」形式においては、従属節の「タ」形は完了を表し、現在・未来を表す主節の「ル」形と接続できないが、キルギス語は従属節の形式は主節の時制に影響を与えず、主節は現在形あるいは過去形でも、非文にならない。

- ・ 日本語においては従属節に非過去の「ル」形が来る場合、対応するキルギス語は *-ar* 未来分詞が使われ、過去の「タ」形が来る場合には *-gan* 過去分詞が使われる。

・ キルギス語ではトキの従属節を上記の-ar/-gan分詞+da位格の形式の他に「補助動詞+sa」条件を表す-sa接辞を用いて表すこともできる。

## 2.3 主節が「テイル」形の場合

### C1 スルとき

(30) 田舎に帰省するときなど遠出に合わせて、大きな買い物をするようにしています。  
(『Yahoo! 知恵袋』)

(31) Ayıl-ga kayt-aar-da je alıs jak-ka  
田舎-DAT 帰省する-PART-LOC 又遠い所-DAT  
ket-eer-de, köptögön nerseler-di  
行く-PART-LOC 多く 物-PL-ACC  
**sat-ıp al-ıp tur-a-m.**  
買う-CVB とる-CVB tur-PRS-1

### C2 シタとき

(32) お酒を飲み過ぎた時に胃薬を飲んでいる。

(33) Arak köp içken-de aškazan-dın  
酒 たくさん 飲む-PART-LOC 胃-GEN  
darı-sı-n **iç-ıp tur-a-m.**  
薬-3:POSS-ACC 飲む-CVB tur-PRS-1

上記の(30)と(32)の日本語の文は、従属節がそれぞれ「ル」形と「タ」形となっているが、主節は「テイル」形で共通している。このように、主節が「～するようにしている」のように日常的に行われていることを表す場合には、習慣として行っているという意味で tur- 補助動詞(太文字で示す)を使用するのが適切である。さらに、従属節における述語の形式は jat- と、補助動詞のいずれも使用せず、「kayt(帰省する)/iç-(飲む) という動詞語幹 +ar または -ken 分詞(母音調和のために -gan がこの形になっている) + 位格」によって表される。つまり、従属節の「ル」形の場合に、-ar 未来分

詞と「タ」形の場合に -ken 過去分詞が使われ、出来事の時間関係を明確にする。

### C3 シテイルとき

(34) 私は勉強をしている時、音楽を聴いている。

(35) Men sabak oku-p jat-kan-da  
私 勉強 する-CVB jat-PART-LOC  
muzıka ug-a-m.  
音楽 聴く-PRS-1

上の(34)の文においては、日常的に何かをしている際に何かをしているという意味で従属節と主節の出来事が同時的な関係を示している。そして、従属節と主節にある述語の両方が動作動詞で、動作の継続を表している点に特徴がある。これに対してキルギス語の(35)は、okup jat+kan 分詞 +da 位格が用いられ、日本語の「テイル」との対応を見せている。しかし、主節の述語に ugu-p jat-a-m<sup>4</sup> のように jat- 補助動詞は使用せず、日本語のような「テイル」形ではなく、ug-a-m のように単純現在形を使う点が日本語と異なっている。

### C4 シテイタとき

(36) \*部屋を掃除していたとき庭に朝顔が咲いている<sup>5</sup>。

(37) \*Men üy-dü jıyna-p jat-kan-da  
私 家-ACC 片づける-CVB jat-PART-LOC  
kaymak gül güldö-p tur-a-t.  
クリーム 花 咲く-CVB tur-PRS-3

(38) Men üy-dü jıyna-p jat-kan-da  
私 家-ACC 片づける-CVB jat-PART-LOC

4 jat-の他に習慣的に行っているという意味で補助動詞 tur- を使うことができるが、本動詞単独で使う方が自然である。

5 この文は作例であり、日本語話者のチェックを受けている。

kaymak gül güldö-p tur-uptur.  
 クリーム 花 咲く-CVB tur-PAST3

この(36)のような「～テイタ時～テイル」形式の文は、日本語母語話者にとって不自然である。キルギス語も(37)のように現在形だと不自然な文になるが、(38)のように過去形を使う方が自然になる。日本語も「部屋を掃除していたとき、庭に朝顔が咲いていた。」とすると自然な文になる。その場合に従属節と主節の主語は一つではなく、主節の過去形が時期や実現がはっきり区別されていない過去の動作を表す場合には -iptir 不定過去を使用し、「私が掃除をしていたとき朝顔が咲いていた」と言える。すなわち、いつ咲いたか分からないが、掃除をしていた時に朝顔が咲いたことに気付いたという意味を表している。さらに注意を向けたいのが、tur- 補助動詞の使用である。この動詞は変化の結果の状態というアスペクト的な意味を表しているため tur- が使われていると言える。

しかし、キルギス語の場合に従属節の形式は主節の時制に影響しないと述べたことが事実であれば、(37)は容認可能な文になるはずである。次の(39)はその例である。

(39) Men üy-dü jïyna-p jat-kan-da  
 私 家-ACC 片づける-CVBjat-PART-LOC  
 muzika ug-a-m.  
 音楽 聴く-PRS-1  
 「私は部屋を掃除しているとき音楽を聴く。」

実際、この(39)は(34)と同様な文である。日本語の「私は勉強していたとき音楽を聴いている。」と言えないが、キルギス語は(39)のように言える。このことは何を意味するのだろうか。キルギス語の(37)が容認不可能の理由

は、主節に来る事柄と従属節に来る事柄の関係が結びにくくなっているため接続できないということかもしれない。しかし、動作主を一人にすれば、主節は現在形で表せる。

以上が、日本語において主節のテンス・アスペクトが「テイル」形の場合、トキ節の使用実態と対応するキルギス語の例を示したものである。

最後に、Cグループに示した日本語の特徴及びキルギス語との相違点をまとめると次のようになる。

- ・ 日本語の「～スル時/シタ時～テイル」形式の場合に、キルギス語では主節に現れる形式として「するようにしている」の意味で「-ip tur-+a現在形接尾辞+人称」が用いられる。

- ・ C3の「～シテイル時～テイル」形式の場合に、日本語の主節では「テイル」が使われるのに対して、キルギス語の主節でjat-補助動詞ではなく、単純現在形が用いられる。

- ・ 一方、「～シテイタ時～テイル」形式の場合には、日本語もキルギス語も容認不可能な文になる。しかし、キルギス語は、動作主を一人にし、主節に来る事柄と従属節の事柄を同じ人物が行うような文にすると自然な文になる。

## 2.4 主節が「テイタ」形の場合

### D1 スルとき

- (40) a 私が学校に行くとき雨が降っていた。  
 b 私が学校に行ったとき雨が降っていた。
- (41) a Men mektep-ke barat-kan-da  
 私 学校-DAT 行っている-PART-LOC  
 jaan jaa-p jat-ti.  
 雨 降る-CVB jat-PAST1  
 b Men mektep-ke barat-kan-da  
 私 学校-DAT 行っている-PART-LOC  
 jaan jaa-p jat-kan.  
 雨 降る-CVB jat-PAST2

- c ??Men mektep-ke barat-kan-da  
私 学校-DAT 行っている-PART-LOC  
jaan jaa-p jat-iptir.  
雨 降る-CVB jat-PAST3
- d ??Men mektep-ke barat-kan-da  
私 学校-DAT 行っている-PART-LOC  
jaan jaa-p jat-ču.  
雨 降る-CVB jat-PAST4

(40a,b) に対応するキルギス語を示すと上記のように4通りがある。ただし、(41c,d) は不自然な文になる。いずれも過去に起きた出来事であることが共通しているが、主節に現れる過去形の種類で文のニュアンスが異なっている。これらの中で当該の日本語の文に一番適切な文は(41a)の jaa-p jat-ti のような確定過去である。それに対して、(41b) のような主節に -kan 接尾辞の過去形を使う場合には前後の文脈が必要となる。すなわち、過去に起きたある特定の日について思い出して「その日学校に行っている時、雨が降っていた」という意味になる。次に、(41c) のような -iptir 不定過去と(41d) のような -ču 習慣過去はこの文では不適切である。なぜなら、(41c) の場合には、話し手が雨が降っていることを分っていないような文になり、学校に行く時に雨が降っていたのを誰かに気づかされた時の発言になってしまい、非論理的になる。(41d) も習慣過去の場合には、学校に行く際にいつも雨が降っていたと言えないために不自然な文となる。

## D2 シタとき

- (42) 私がここに来たとき、彼はもう夕食を食べ始めていた。
- (43) Men bul jer-ge kel-gen-de  
私 この場所-DAT 来る-PART-LOC  
al ėbak tamak je-p bašta-ptir.  
彼もう 料理食べる-CVB 始める-PAST3

(42) の主節の「テイタ」は、通常の継続と異なり、「食べ始める」という行為が継続しているわけではない。この場合の「テイタ」は基準時以前に行われたことを示し、完了を表す。キルギス語の場合は、je-p bašta-ptir のように動詞 bašta- (始める) に -iptir 接尾辞が付加された過去形が用いられる。この接尾辞は不定過去を表し、上記の(41c)と同様に基本的に時期や実現がはっきり確認されていない過去の動作を表し、人から聞いた動作や予想外の動作などを表すが、ここでは、従属節の事態が生起する前に動作が始められ、「来たとき」も食べることが継続していたという意味で使われている。このように過去完了の用法に対して、次のように従属節が「ル」形の場合には、主節の「テイル」は未来完了を表すとされている。

- (44) 来週ここに来るときにこの本を読み終わっているだろう。
- (45) Emki juma bul jer-ge kel-eer-de  
次 週 ここ-DAT 来る-PART-LOC  
bul kitep-ti oku-p büt-öt boluş kerek.  
この本-ACC 読む-CVB 終わる-PRSだろう

キルギス語の場合も、主節の oku-p büt-öt は未来における完了を表している。

## D3 シテイルとき

- (46) あの雨が降っているとき、弟はサッカーをしていた。
- (47) Oşol kün-ü jaan jaap jat-kan-da  
その日 雨 降る-CVB jat-PART-LOC  
ini-m futbol oyno-p jat-ti.  
弟-1:POSS サッカー する-CVB jat-PAST1

(47) のキルギス語の場合には従属節にも主節にも補助動詞 jat- が使われて、-ti 過去接尾辞

を付加することによって過去のある時点における動作の進行を表している。そして、他の補助動詞ではなく、2つの位置に *jat-* を使うことが特徴だと言える。これとは対照的に、次の(49)のキルギス語の文が挙げられる。

#### D4 シテイタとき

(48) 僕が会社で仕事をしていたとき、母は家事をしていた。

(49) *Men firma-da ište-p jür-gön-dö*

私 会社-LOC 仕事する *jur*-PART-LOC

*üy jumuš-tar-in apa-m kil-ip tur-ču.*

家事-PL-ACC 母-1:POSS する-CVB *tur*-PAST-3

上の(46)と(48)の従属節における「～テイル／～テイタ」と呼応する主節が「テイタ」形式の特徴は、主語が一つではないということである。すなわち、(48)は「僕が会社で仕事をしていたとき、僕は家事をしていた。」のように使えない。これに対して(49)のキルギス語は、従属部分には *ište-p jür-gön-dö* のように *jür-* 補助動詞と主節は *kil-ip tur-ču* のように *tur-* 補助動詞が用いられている。主節の述語は、習慣として行っているという意味で *tur-* 補助動詞を使用することが適切である。そして過去接尾辞として *-ču* を接続することによって過去における習慣のように毎日行われる動作を表すことになる。次の(50)のキルギス語は従属節に同じ *jür-* 補助動詞が用いられた例である。

(50) *Soodager bak ič-in arala-p*

商売者 木 中-ACC 歩く-CVB

*jür-gön-dö bir-inen biri aš-kan*

*jür*-PART-LOC 一-ABL 一 溢れ-PART

*ukmuš-tar-dī kör-ö ber-ip,*

不思議-PL-ACC 見る-CVB あげる-CVB

*ěmi alar-din kaysi-nisi-na*

もう それら-GEN どれ-3:POSS-ACC

*taŋ kal-ar-in da bil-be-y kal-dī.*

驚く-FUT-ACC も知る-NEG-CVB 残-PAST1

「商人は庭を歩いているとき次々優れた不思議を見ていてどれに驚くかは分からなくなってきた。」

以上が、日本語において主節のテンス・アスペクトが「テイタ」形の場合、「トキ」節の使用実態と対応するキルギス語の例を示したものである。

最後に、Dグループに示した日本語の特徴及びキルギス語との相違点をまとめると次のようになる。

- ・ 日本語とキルギス語では、どちらも従属節における「～テイル／～テイタ」と呼応する主節が「テイタ」形式の特徴は、主語が一つではないということである。

#### おわりに

本論文では、日本語の「トキ」節を中心とした従属節についてキルギス語と比較対照しながら素描を試みた。本論文では、主に1つの文を対象として考察を行っているが、しかし実際の言語生活において文はデイスコースの中に現れる。今後の課題としては、以上のようなことを踏まえ、日本語教育の場でどのように活用するかについては、さらに検証を進めなければならない。

#### [注]

本論文は博士論文(2016)第3章に基づいて、その一部を分かりやすく記述する形で修正を施したものである。

## 参考文献

- 奥田靖雄 (1977) 「アスペクトの研究をめぐって — 金田一の段段 —」(宮城 教育大『国語国文』87) .
- 金水敏・工藤真由美・沼田善子 (2000) 「時の表現」、『時・否定と取り立て』、岩波書店
- 工藤真由美 (1989) 「現代日本語の従属文のテンスとアスペクト」第36巻、横浜国立大学
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト』、ひつじ書房.
- コムリー・バーナード著山田小枝訳 (1988) 『アスペクト』、むぎ書房刊.
- スバゴジョエワ アセリ (2016) 「進行アスペクトとテンスに関する日本語とキルギス語の対照研究」博士論文、宇都宮大学国際学研究所国際学研究専攻
- 高橋太郎 (1985) 『現代日本語動詞のアスペクトとテンス』、秀英出版.
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意

味』第II巻、くろしお出版 .

- 三原健一 (1992) 『時制解釈と統語現象』、くろしお出版.
- 鷲尾龍一・三原健一 (1997) 『ヴォイスとアスペクト』中右実編、日英比較選書7、研究社.

## キルギス語の文献

- Abduldaev, E. (1998) *Azirki kirgiz tili*, Kirgizstan, Biškek.
- Oruzbaeva, B., Tursunov, A., Sydykov, J., Akmataliev, A., Musaev, S., Sadykov, T., (2009) *Azirki Kirgiz adabiy tili*, Kirgiz Respublikasinin Uluttuk ilimler Akademiyasi, Avraziya Press:Bishkek.
- Tursunov, A. (1959) *Kirgiz tilindegi etišterdin keler čagi menen ućur čagi*, Kirgiz SSR Ilimder Akademiyasi, Frunze.
- Yudahin (1965) *Kirgizsko-russkiy slovar'*, Sovetskaya Enciklopediya, Moskva.

## 本論文で採用している略号 (スバゴジョエワ2016: 9)

1	first person	1人称	MOD	modality	モダリティ
2	second person	2人称	NEG	negative	否定
3	third person	3人称	PASS	passive	受身
ABL	ablative	奪格	PL	plural	複数
ACC	accusative	対格	POSS	possessive	所有
ADJ	adjective	形容詞	PRS	present/future	現在・未来
CAUS	causative	使役	PST1	past1	確定過去
COND	conditional	条件	PST2	past2	不明過去
CVB	converb	副動詞	PST3	past3	不定過去
DAT	dative	与格	PST4	past4	習慣過去
FUT	future	未来	PST/FUT PTCP	past/future participle	過去/未来分詞
GEN	genitive	属格	RECP	reciprocal	相互
IMP	imperative	命令	REFL	reflexive	再帰
LOC	locative	位格	SG	singular	単数